

地域からの信頼を得るために 学校評価への取り組み

元・長崎県立鹿町工業高等学校 教諭 大坂 良一
(現・長崎県立五島高等学校定時制 教頭)

1. はじめに

本校も、平成15年度から学校評価を導入しているが、平成20年に文部科学省から新しい学校評価のガイドラインの改定が出されて現在の学校評価の形をとるようになった。初めの頃は学校評価作成のための評価だったが、まだ不備な点はあるにしても少しずつ組織としての成長の指標となる評価に変わりつつある。地域との関わりを大切に、地域と共に情報を共有し地域に信頼される学校を念頭に学校評価を実施している。

2. 本校の概要

本校は、長崎県の北部（住所は、今年4月の市町村合併により長崎県北松浦郡鹿町町から佐世保市に変更）に位置し、昭和37年に開校し48年目を迎えた工業高校である。

現在は、機械科・電気科・電子工学科・土木技術科の4学科がある。

また、県内の工業高校で唯一「学生寮」を持



った学校で、県北部の壱岐・対馬等の離島をはじめ長崎市や五島からの学生も本校に在学している。そのため全校生徒数468名の学校で出身中学校は46校になる。

ここ数年第2種電気工事士の資格取得数や合格率で全国上位にランクされている。その影響もあり生徒も資格取得に意欲的になりジュニアマイスター顕彰獲得者数も増加している。また、読書優良実践校として文部科学省表彰を受賞した。部活動も各部とも徐々にレベルが上がり、九州大会や全国大会に出場する機会が増えている。

3. 研究指定

現在、県の教育委員会や文部科学省から研究指定を受け以下の研究に取り組んでいる。

(1) 平成19・20年度は文部科学省指定の「高等学校における発達障害支援モデル事業」として高等学校に在籍する発達障害のある生徒に対して、ユニバーサルデザインによる一斉指導のあり方とニーズに応じた個別指導のあり方についての研究を相談部中心に各科連携して行った。

(2) 平成21・22年度は、文部科学省・国土交通省連携の「地域産業の担い手育成プロジェクト（建設分野）」の指定を受け、土木技術科職員・生徒が日々の活動を通して、そのテーマに取り組んでいる。

(3) 学校保健（分掌）研究においても、平成21・22年度に県教育委員会指定を受け、研究主題を「産業技術人（工業人）として生きぬく

ための健康・安全教育」，テーマを「現場に対応できる力 ～人間力の向上～」として，保健体育科を中心に各学科・学年・分掌等が連携して研究をしている。その一環として学校独自の安全教育「^{しかこう}鹿工訓練」を実施している。

4. 学校評価の取り組み

1. 学校評価委員会

委員会は教頭・事務長・教務主任・生徒指導部主任・進路指導部主任・生徒会部主任・環境整備部主任・相談部主任・学年主任・学科主任代表・教科主任代表・教務係の12名で構成している。平成21年度は4回の委員会を開いた。自己評価・学校評価外部アンケート・授業アンケートの内容確認と集計結果の検討や成果と課題についての検討を行った。

2. 教育目標・方針

学校評価の根幹となる校訓は「われ共に学びて 道を究めん」である。校門を入るとすぐ真正面に高さ約4mの校訓碑がある。

教育目標は「心身ともに健康で，広い視野と豊かな人間性を持ち，想像力あふれる実践的な産業技術人を育成する。」である。

教育方針は以下の通りである。

- (1) 礼儀正しく，素直で節度ある態度を養う。
- (2) 自ら進んで真理を探究し，社会に貢献する産業技術人としての基礎的能力を身につける。
- (3) 時代や社会の変化・進展に対し，柔軟に対応できる知識・技術・判断力を育てる。
- (4) スポーツに親しみ，明るく健やかな心身をつくるとともに，物を大切に作る心を育む。
- (5) 相互の人権を尊重し，強調・協同できる人格を養う。

この校訓・教育目標・教育方針をベースにして具体的な目標設定を行っている。

3. 自己評価

(1) 目標設定

年度初めの職員会議で，学校教育目標と学校

経営方針の確認をし，前年度の学校評価を参考に校長が年度の重点目標を示す。

平成21年度の重点目標は

- ①就職率100%の達成
- ②資格取得と各コンテストの向上
- ③道德教育の充実
- ④部活動の活性化
- ⑤組織運営体制の確立

平成21年度は，年度の重点目標を全職員が共有できるように重点目標のポスターを美術科教諭に作成してもらい職員室中央に貼付した。

次に，各分掌・学年・科は，年度目標と具体的方策を設定する。

そして学校評価委員会で評価項目とその目標の内容を確認し，自己評価表を作成する。平成21年度の評価項目は以下の通りである。

1 学校経営

- ①学校経営方針 ②重点努力目標

2 教育活動

- ①教育課程の編成 ②教科指導
- ③総合的な学習の時間 ④特別活動
- ⑤キャリア教育 ⑥学科 ⑦学年

3 組織運営

- ①校務分掌 ②各種委員会 ③校内研修
- ④環境教育

4 教育環境

- ①施設設備の管理 ②情報インフラの整備

5 開かれた学校

- ①保護者との連携 ②地域や関係機関との連携

6 生徒の教育成果

- ①豊かな人間性 ②学力定着・向上 ③健康・体力

(2) 自己評価のための資料

さまざまな外部アンケートを実施して，集計結果はその月の運営委員会・職員会議で公表し評価の指標としている。これらのアンケートは，評価をしていく上で大変参考になっている。

- ① 外部アンケート（生徒・保護者）
- 4月 新入生アンケート（1年生・保護者）
 - 7月・2月 授業アンケート（全生徒）
 - 10月 学校評価アンケート（全生徒・保護者）
 - 2月 鹿工満足度調査（3年生）
- ② 外部アンケート（来校者・参加者）
- 6月 地区別学校説明会アンケート
 - 7月 長崎っ子の心を見つめる週間来校者ア
- アンケート
- 8月 オープンスクール参加者アンケート
 - 10月 入試説明会アンケート
 - 11月 鹿工祭来校者アンケート
- また、年22回の校内公開授業を実施して、生徒の様子や教師間の相互評価をしている。
- その他PTA総会の日の保護者向け公開授業・保護者面談週間の保護者向け公開授業・「長崎

平成21年度 学校評価 年間計画 長崎県立鹿町工業高等学校

	学校関係者評価	学校評価委員会	自己評価	外部アンケート	
				生徒・保護者	その他
4月			各分掌・学年・学科の年間目標	新入生アンケート(1年生)	
5月		第1回学校評価委員会(年度目標・年間計画)			
6月					地区別説明会アンケート(中学生・保護者)
7月	学校関係者評価委員会		自己評価(中間)	第1回授業アンケート(生徒)	長崎っ子の心を見つめる週間アンケート(来校者)
8月					オープンスクールアンケート(中学生・保護者・引率教諭)
9月			年間を通して22回の公開授業についての教職員間の相互評価		
10月		第2回学校評価委員会(外部アンケートの内容・自己評価中間の結果)		学校評価アンケート(生徒・保護者)	入試説明会アンケート(中学校教諭)
11月					鹿工祭アンケート(来校者)
12月		第3回学校評価委員会(外部アンケートの結果)			
1月			自己評価(年度末)	第2回授業アンケート(生徒)	
2月	学校関係者評価委員会	第4回学校評価委員会(自己評価の結果)	各分掌・学年・科の成果と課題	鹿工満足度調査(3年生)	
3月		職員会議(成果と課題・来年度の目標案)			※各アンケートは、集計後に各月の定例職員会議で全職員に公表する。

っ子の心を見つめる週間」の地域・保護者向けの公開授業・課題研究発表会の日の保護者向け公開授業を実施している。また、平成21年度は、本校の入試説明会の日に中学校の教師に対しての公開授業も実施した。本校の様子を理解してもらうのに効果的であった。

(3) 自己評価

7月に年度中間の評価を実施し、集計結果を9月の運営委員会・定例職員会議で報告をし、年度後半の対策を練るようにしている。

そして、1月に年間の総合評価を実施する。集計結果は2月の運営委員会・職員会議で報告をし、評価の内容を検討して各分掌・学年・科は、成果と課題を2月中にまとめる。

3月の職員会議で3年生の「鹿工満足度調査」の結果と自己評価の成果と課題について意見交換をする。年度反省をあげていく中で、来年度の課題が見えてきて職員の意思統一がなされてくるようになった。

4. 学校関係者評価

学校評議委員5名をお願いをして、学校評議委員会の時に学校関係者評価会議を年2回実施している。平成21年度は、8月初旬と3月初旬に実施した。3月の会議では年度の総括評価を実施している。

平成21年度は、外部アンケートや資料を基に学校概要説明を教務部・生徒指導部・進路指導部の順にした後、説明内容について質疑応答をした。その後、次の4項目について意見交換を行った。

- ① 本校を活性化し「特色ある学校」にするためにはどうすればよいか。
- ② 生徒の現状についてと本年度の自己評価について。
- ③ 本校に求められていること、期待することについて。
- ④ 地域との連携について、地域から認められる学校にするには。

地域での本校の評価やこれからの学校運営について貴重な意見を聞くことができた。

最後に5名の委員にアンケート記入をお願いして会議を終えた。

5. 学校評価の報告

3月末に本校のホームページ (<http://www.shikakou.ed.jp>) に掲載をして公開をしている。また、PTA総会で前年度の報告とアンケートへの協力依頼をしている。県教育委員会へも4月に文書報告をする。

6. 第三者評価

平成21年度は、長崎県教育委員会第三者推進委員会より第三者評価の試行が本校で実施された。

平成21年11月10日と11日の2日間に、4人の第三者評価チームが来校され、評価をしていただいた。

事前に学校要覧・教育課程表・シラバス・保護者宛のプリント・部活動の成績・近年の進路状況結果などの資料を提出し、評価委員に目を通してもらった。

校長をはじめとして各分掌主任・学科主任・学年主任・生徒代表・保護者代表とのヒヤリングや職員朝会や学校内の施設見学が実施された。

ただ残念なことに、この時本校では新型インフルエンザの感染がピークになり、2日目は、学校閉鎖で予定していた生徒の登下校の様子や授業の見学等が実施できなかった。

評価項目は、学校の総合的な状況と以下5つの大項目で評価がなされた。

- ① 各教科等の状況
- ② 進路指導の状況
- ③ 生徒指導の状況
- ④ 学校経営の状況
- ⑤ 学校・家庭・地域の連携協力の状況

今回の第三者評価では、自己評価や学校関係者評価とは異なり、ヒヤリングを受けたり、評価をされることで、我々自身も組織を客観的に見ることができた。

7. 情報の収集・発信

人と人との交流による情報収集や発信が効果があると信じ、生徒・職員が地域行事等へ参加したり、地域の人々が本校に来校しやすくなることを心がけ、次のような実践を行った。

① 中学校への出前授業

平成21年度は、体育科と電気科が近隣の中学校へ出向いて授業を行った。

② 小学校との交流学習会

近隣の小学生が、グループに分かれてスポーツやものづくりを高校生と体験する学習会。

③ 地域開放講座

地域の方が本校でものづくりの体験をする学習講座。

④ 読み聞かせ

朝の読書の時間に、年3日間地域ボランティアの方による生徒への読み聞かせ。

⑤ 地域行事への参加

ナイターソフトボール・駅伝大会・産業文化祭への本校職員の参加

⑥ 鹿工祭前の地域への案内

文化祭の案内を生徒が学校周辺の家庭に1軒ずつ配布して、地域の方に参加を呼びかけ理解を得る。

⑦ 中学校での高校説明会

出身中学の説明会に本校生徒が出向いて説明をする。

また、情報発信の方法としては、ホームページや学校・学年・学級便りの外に保護者会員にメールの送信を行っている。

さらに、学校PR委員会を中心に

① プロモーションDVD

② 鹿工案内パンフレット

③ 鹿工情報紙MAX

④ 後輩へのメッセージ

⑤ 校門前掲示板

⑥ 体育祭ポスター

⑦ 鹿工祭ポスター

⑧ 入試ポスター

等を作成して、情報を提供する対象に合わせてその内容や方法を工夫しながら地域や中学校に情報発信を行っている。

8. 今後の課題

学校評価における本校の今後の課題を挙げる。

① 重点目標の周知

職員の周知はもちろんだが、生徒や保護者・地域住民にも機会ある度に知らせる方が効果上がる。

学校評価をコミュニケーションツールとして、積極的に活用する学校に共感し、一緒に努力していこうと思えるようなものにする。

② 年度末に次年度の計画を立案

年度末に成果と課題について検討をするが、その中で組織全体としての成果と課題を検討し共有する必要がある。

③ 判断となる指標

自己評価の判断となる指標を「取組指標・成果指標・満足度指標」の3つに分けて判断をする必要がある。

④ 情報の整理

情報・資料は年間を通じ継続的・組織的に収集・整理しておく必要がある。

⑤ 組織的・継続的な改善

9. 組織は「生き物」

組織は「生き物」である。PDCAサイクルを組織的・継続的に繰り返し改善し、本校を「日本一地域から信頼される学校」として成長させていきたいと思っている。